人文科学とコンピュータ　33－3
（1997．1．24）

日本語教育用辞書の用例の分析

坂谷内　勝

国立教育研究所

日本語教育用辞書の用例は，学習者が日本語の使用例を具体的に理解する上で，重要であると考えられる。ある単語の用例が，ある学習者のある学習場面で，非常に理解しやすいものであれば，その用例はその学習者のその学習場面で適切な用例であると考えられる。しかし，一般に，辞書の用例は，専門家による経験的な知識に基づき，限られた諸条件の中で最大効果をねらって作成されており，必ずしも日本語学習者にとって適切な用例が準備されているとは限らない。そこで，本研究の目的は，日本語教育用辞書に適切な用例を増補するために，日本語教育用辞書の用例を分析することにある。

An analysis of the usage in the dictionary for Japanese education

Masaru SAKAYAUCHI

National Institute for Educational Research
6-5-22 Shimomeguro, Meguro-ku, Tokyo 153, Japan

It is thought that the usage in the dictionary for the Japanese education is one of the most important dictionary elements when we understand the Japanese language. It can be called an appropriate usage when the meaning of the word is very comprehensible for the learner. However the usage in the dictionary is adopted in general aiming at the maximum effect in the limited condition based on experienced knowledge. Therefore an appropriate usage for all learner is not necessarily adopted. The purpose of this research analyzes the usage in the dictionary for Japanese education.

1．はじめに

辞書の用例は，一般に，その見出し語の意味や用法がよく理解できるように，また，その用例を応用して表現することができるように示されている。特に，日本語教育用辞書の用例は，外国人の学習者を対象に，日本語の使い方を具体的にわかりやすく理解できるように示されている。日本語学習者は，学習目的，学習時間，自国文化圏等が多様化しているため，ある学習者にとって適切な用例が，異なる学習者にとって適切でない用例である場合がある。辞書の用例は，専門家による経験的な知識に基づき，限られた諸条件の中で最大効果をねらって作成されており，必ずしも，すべての日本語学習者にとって適切な用例が準備されているとは限らない。そこで，本稿では，日本語教育用辞書に適切な用例を増補するために，日本語教育用辞書の用例を分析した結果と，試験的に用例を増補してみた結果について報告する。

2．CASTEL/Jの概要

国立教育研究所が中心となって開発研究を進めてきた，「日本語教育支援システム（Computer Assisted System for TEaching & Learning ／Japanese，以下 CASTEL/J と称する。）」では，合計約90冊近くの新書，白書，台本等を電子化した教材テキストデータベースと，文字・音声・画像データによるマルチメディア利用の漢字，単語等の各種電子化辞書データベースを開発している[1-13]。電子化した辞書データベースの１つに用例辞書データベースがあり，このデータベースは「基礎日本語学習辞典（以下，「基礎辞典」と呼ぶ。）」[15]に掲載されている用例を基本にしている。

教材テキストデータベースは，表１に示すとおり，様々な分野から日本語教育に役立ちそうな素材を選定し，全ての教材テキストに対し，原文のほか，かな表記，ローマ字，分かち書き表記等のデータを付加して電子化している。なお，CASTEL/Jでは，すべての著作物に対し，原著作者から“著作物を日本語教育教材として使用する”条件で使用承諾を得ている。

3．「基礎辞典」の用例の特徴

CASTEL/Jの用例データベースには，現在，「基礎辞典」の用例が計 6,427個収録されている。「基礎辞典」は，見出し語全体に対する用例付きの見出し語の割合（これを用例充足率と呼ぶ。）が，92.8% (=2695/2905)で，非常に高い値である。また，「基礎辞典」では，１つの見出し語に対して，平均 2.2個の用例がある。ちなみに，「パックス和英辞典」[14]の用例充足率は，43.6% (=14274/32721)である。

「基礎辞典」の用例全体の単語数（句読点等の記号も１つの単語として数える。）は，65,111個で，１つの用例は平均10.1単語（最小２，最大48）である。また，用例全体の異なり単語数（語彙数）は，6,145個である。用例の文字数は，平均19.7文字で，文字の種類については，①ひらがな12.8文字(65.0%)，②漢字 4.8文字(24.3%)，③記号等 1.6文字(8.1%)，④カタカナ 0.4文字(1.9%)，⑤数字 0.1文字(0.7%) の順である。

4．「基礎辞典」の用例増補の試み

「基礎辞典」で用例がない単語について，用例を増補することを試みる。用例のない単語数は 210である（表２参照）。

まず，「基礎辞典」にある既存の用例を他の単語の用例として再利用できるかどうかについて検討する。用例データベースの中に，表２の単語を含む用例を検索した結果，88語(41.9%) の単語に用例が存在した。

表1　教材テキスト一覧

分野	本，教科書等の書名	冊数
宗教	「日本の神々－古代人の精神世界(*A)」，「神と仏(*A)」	2
政治・法律	「憲法を読む(*A)」，「日本人の法感覚(*A)」	2
社会	「高齢化社会(*A)」，「選び取る「停年」(*A)」，「我が国の文教施策（文部省編）」，「国民生活白書（経済企画庁編）」，「新聞記事（北日本新聞）」	5
経済・経営	「「ゆとり」とは何か(*A)」，「日本の企業発展史(*A)」，「稟議と根回し(*A)」，「経済白書（経済企画庁編）」，「教科書「新しい社会　公民」（東京書籍）」	5
人類学・民俗学	「日本人の死生観(*A)」	1
日本人論・日本文化論	「タテ社会の人間関係(*A)」，「日本人の意識構造(*A)」，「たべものと日本人(*A)」，「パチンコと日本人(*A)」，「日本人の言語表現(*A)」，「タテ社会の力学(*A)」，「まなざしの人間関係－視線の作法(*A)」，「適応の条件(*A)」	8
日本史・世界史	「近世の日本－新書日本史5(*A)」，「近代の潮流－新書日本史7(*A)」，「二十世紀の世界－新書西洋史8(*A)」，「教科書「新しい社会　歴史」（東京書籍）」	4
地理	「地図の歴史（日本）(*A)」，「教科書「新しい社会　地理」（東京書籍）」	2
自然科学・技術	「人体の不思議(*A)」，「睡眠の不思議(*A)」，「時間の不思議；タイムマシンからホーキングまで(*B)」，「酒飲みの心理学(*B)」，「記憶の大脳生理学(*B)」，「犯罪の心理学(*B)」，「全脳型勉強法のすすめ；脳生理学が教える効果的学習法(*B)」，「化学とんち問答――休さんに挑戦(*B)」，「進化論が変わる：ダーウィンをゆるがす分子生物学(*B)」	8
人生論	「働くということ(*A)」	1
文学	「俳句のたのしさ(*A)」，「エッセーの書き方(*A)」	2
芸術	「手塚治虫(*A)」	1
日本語	「敬語を使いこなす(*A)」，「故事成語(*A)」，「日本語をみがく小辞典－名詞篇(*A)」，「日本語をみがく小辞典－名詞篇(*A)」，「日本語をみがく小辞典－動詞篇(*A)」，「日本語をみがく小辞典－形容詞・副詞篇(*A)」，「平成3年度日本語能力検定試験問題（国際交流基金）」，「Japanese for You：The Art of Communication（大修館書店）」」	8
	小計	49
映画台本	「男はつらいよ（松竹映画）」シリーズ	40
	合計	89

注：(*A)は講談社「現代新書」，(*B)は講談社「ブルーバックス」

表2　用例のない単語リスト（ 210語）

赤ちゃん，空き，握手，明日，温か，あて名，幾，一，一月，いちご，芋，牛，枝，えび，円，オーバー，おい，応用，大，大きな，丘，億，奥様，雄，お茶，お願い，家，回教，化学，かに，カバー，火曜日，学，学部，月，器，機，汽車，記者，切手，絹，九，旧，共産主義，局，曲線，霧，キリスト教，キロ，金曜日，銀，九，九月，くぎ，口，くちびる，くつ，首，黒，君，ぐらい，系，県，月曜日，攻撃，工場，国家，暦，五，号，五月，さ，最，昨，札，三，さん，三角，三月，酸素，四，四角，四月，七，七月，室，縛る，資本主義，社会主義，主義，白，新，神道，次（接頭語），次（接尾語），辞典，事典，字引，じゃ，ジュース，十，十一月，十月，十二月，水素，水曜日，世紀，石炭，千，ゼロ，全，総理大臣，大使，大正，タイプライター，タオル，炊く，竹，たち，玉，球，弾，卵，炭酸ガス，単数，大臣，大統領，ダンス，血，小さな，長，綱，つめ，テープ，手ぬぐい，手袋，天，店，天皇，電池，十日，トマト，友，動物，土曜日，内，ナイフ，ナイロン，なし，夏，七，なわ，二，二月，日曜日，日本，入，鶏，布，根，ねこ，ねずみ，八，八月，パイナップル，百，びん，副，豚，仏教，部品，ペンキ，帽子，マッチ，末，万，みかん，ミシン，身分，明，ミリ，民主主義，民族，メートル，めい，名（接頭語），名（接尾語），名刺，明治，雌，綿，免許，木曜日，木綿，桃，屋，柔らか，夕，用，八日，四日，四，リットル，料，両，領事，六，六月，割，ん

【例1】用例のない単語『牛』の場合

⇨「わたしは父に牛の乳の搾り方を教えてもらいました。（『搾る』の用例）」

次に，教材テキストデータベースの中から，映画台本を除く49冊の本の文（計95,699個）から，表2の単語を含む文（用例候補）を検索した結果，205語(97.6%) の単語に用例候補が存在した。残る5語（あて名，かに，くちびる，手袋，なわ）については，ひらがなを漢字にする等の表記方法を変えて検索した結果，これらの単語の用例候補を見つけることができた。

【例2】用例のない単語『牛』

⇨「牛は必ず後方から追わないとだめである。（会田雄次著，日本人の意識構造）」

【例3】用例のない単語『キリスト教』

⇨「秀吉もはじめはキリスト教に寛大であった。（高尾一彦著，近世の日本）」

【例4】用例のない単語『かに』

⇨「蟹、蛇が脱皮する。（吉野裕子著，日本人の死生観）」

「基礎辞典」の見出し語にない単語は，その多くは名詞であるが，相当数ある。これらの単語の用例についても，同様な方法で得ることができる。

【例5】基礎辞典の見出し語にない単語『丑』

⇨「（桓武天皇はこの噂を聞いて、心底から恐怖を感じたにちがいない。なぜなら彼も、その丑年の生まれであったからだ。（山折哲雄著，神と仏）」

⇨「これに「子丑寅……」の十二支を組み合わせた干支（これを“えと”と呼ぶ）で昔の暦が成り立っているわけで，「来年の干支は何だったかしら」「僕の干支は甲午だ」のように現代でもよく問題にされる。（森田良行著，日本語をみがく小辞典－名詞篇）」

用例の適切性については，「基礎辞典」の

用例分析から，次のようなことが考えられる。

(1) 1つの用例は，10単語（20文字）程度で構成される。

短すぎる文は文意を理解し難く，また，長すぎる文は冗長になるためと考えられる。

(2)用例の漢字使用率は 24%程度である。

漢字は日本語教育で重要視されており，その使用率については十分考慮する必要があると考えられる。例えば，学習者の文化圏が漢字圏である場合は漢字使用率を増加させたり，非漢字圏である場合は漢字使用率を減少させたりすることが考えられる。

(3)基礎辞典語彙を含む用例が基本になる。

「基礎辞典」の語彙を多く含む用例ほど，理解しやすい用例であり，基本的な用例であると考えられる。したがって，初級の学習者には，「基礎辞典」の語彙を多く含む用例が適切であると考えられる。

表3　学習者属性と用例属性の例

(1) 学習者属性の例	
①文化圏	S(1)=(漢字，非漢字)
②学習目標	S(2)=(低，中，高)
③学習時間	S(3)=(少，中，多)
④知識量	S(4)=(少，中，多)
⑤得意技能	S(5)=(会話，読解)
⑥理解特性Ⅰ	S(6)=(専門，一般)
⑦理解特性Ⅱ	S(7)=(法則，例示)
(2) 用例属性の例	
①用例文字数	E(1)=(少，中，多)
②用例漢字率	E(2)=(小，中，大)
③語彙レベル	E(3)=(低，中，高)
④用例特性Ⅰ	E(4)=(口語，文語)
⑤用例特性Ⅱ	E(5)=(図無，図有)

5．おわりに

先の(1)の観点に着目し，教材テキストデータベースの中から，映画台本を除く49冊の本の文（計95,699個）を対象に，8～11単語からなる文を調べてみると，計 8,328文(8.7%)が抽出された。さらに，(2)，(3)の観点で個々の文がどのような特徴を持つかを明らかにし，適切な用例を数多く増補することが今後の課題である（表3参照）。

〔参考文献〕

(1) 坂谷内　勝，「日本語教育用辞書の用例の適切性について」，日本科学教育学会年会論文集，20，pp.107-108，1996.

(2) 坂谷内　勝，「日本語教育支援システムの開発」，『教育と情報』，文部省大臣官房調査統計企画課編，第一法規出版，No.456，pp.44-47，1996.

(3) 坂谷内　勝，中野　照海，高島　秀之，「マルチメディアの教育利用」，『放送教育』，日本放送教育協会，Vol.49，No.13，pp.42-48，1995.

(4) 浅木森　利昭（研究代表者），「マルチメディアを利用した日本語教育支援システムの開発」，文部省科学研究費補助金，試験研究(B)，研究成果報告書，No.03559010，pp.1-120，1994.

(5) 瀧澤　博三（研究代表者），「日本語教育支援システムの開発」，文部省科学研究費補助金，国際学術研究，研究成果報告書，No.02044153，pp.1-132，1993.

(6) 吉岡　亮衛，小松　幸廣，坂谷内　勝，及川　昭文，「日本語教育のための電子化辞書構築」，情報処理学会，研究報告 95-CH-25，Vol.95，No.14，pp.39-48，1995.

(7) 坂谷内　勝，吉岡　亮衛，小松　幸廣，「ＣＡＳＴＥＬ／Ｊの開発(1) ～開発経緯とシステム概要～」，教育工学関連学協会

連合，第４回全国大会講演論文集，第一分冊，pp.327-328，1994.
(8) 吉岡　亮衛，小松　幸廣，坂谷内　勝，「ＣＡＳＴＥＬ／Ｊの開発(2) ～辞書・テキストデータベース～」，教育工学関連学協会連合，第４回全国大会講演論文集，第一分冊，pp.329-330，1994.
(9) 小松　幸廣，坂谷内　勝，吉岡　亮衛，「ＣＡＳＴＥＬ／Ｊの開発(3) ～マルチメディアデータベース～」，教育工学関連学協会連合，第４回全国大会講演論文集，第一分冊，pp.331-332，1994.
(10)苗加　幸春，小松　幸廣，坂谷内　勝，及川　昭文，「ＣＡＳＴＥＬ／Ｊの評価と今後の課題」，情報処理学会，研究報告 93-CH-19，Vol.93，No.76，pp.23-30，1993.
(11)高木　清，吉岡　亮衛，坂谷内　勝，及川　昭文，「日本語教育・学習支援システムの機能構成とその操作性について」，情報処理学会，研究報告 92-CH-15，Vol.92，No.72，pp.33-40，1992.
(12)坂谷内　勝，吉岡　亮衛，「日本語教育・学習支援システムのテキストデータベースについて」，情報処理学会，研究報告 92-CH-15，Vol.92，No.72，pp.41-48，1992.
(13)坂谷内　勝，「日本語教育用典型的テスト問題の自動生成」，日本科学教育学会年会論文集，16，C113，1992.
(14)講談社辞典局編，『講談社パックス英和・和英辞典』，講談社，1991.
(15)国際交流基金編，『基礎日本語学習辞典（英語版）』，凡人社，1986.

〔付録：教材テキストデータ〕

①原文

『鉄腕アトム』『火の鳥』など日本のストーリー漫画とテレビアニメーションの創始者である漫画家、手塚治虫・・・

②分かち書き文

『；鉄腕；アトム；』；『；火；の；鳥；』；など；日本；の；ストーリー；漫画；と；テレビアニメーション・・・

③ひらがな文

『；てつわん；あとむ；』；『；ひ；の；とり；』；など；にほん；の；すとーりー；まんが；と；てれびあに・・・

④ローマ字文

TETSUWAN;ATOMU;";";HI;NO;TORI;";NADO;NIHON;NO;SUTO[RI[;MANGA;TO;TEREBIANIME[SHON;NO;SO[SHISHA;DE;ARU・・・

⑤本の構造記述

1004;000001;0001；プロローグ
1004;000002;0001；一つの時代のおわり
1004;000039;0001；生涯現役の知的職人

（桜井哲夫著，手塚治）